

## 昭和 55 年 3 月 5 日(水)

2 月 28 日の夜行で小屋に入りました。今日はスキーツアーの偵察へLが行っています。俺は私用で横浜へ帰るけど、無事終わって欲しいものです。

掘りごたつでの今。

石垣：山田が口を開くと下ネタか、悪口ばかりだな。

山田：人を選びます。

山田：吉田君って、ニッカを脱いでパンツで帰るの。

吉田：俺、今、はいてるよ…！

今回の目的の一つは遭対合宿でした。どういう訳か俺は遭対委員長だったけど、何や適当にやって、適当に終って、まあ良かった、よかった。最初から移動性高気圧(2名…?)がやって来て、天気も良く、雪が降っても、一部は春、イヤ〜参った、まいった。これからお幸せに！

乱筆失礼しました。

**N. Kazuhito 2 年 22nd 成島和仁**

はれ

11:55 スキーツアーの偵察が帰ってきました。11:45 に第一尾根でのトランシーバーをやったと思ったとたん、トップの浅沼君が帰ってきました。小屋を出て、少し展望台側に行ったところで、偵察隊の声も、第4リフト上、留守番部隊の声も、よく聞こえました。いつも絶対聞こえない、と言われていた第1尾根の声が聞こえました。明日も、明後日も、晴天でありますように。

皆さん、スキーをする時も、水汲みに行く時も、いつ、怪我をするか分かりません。私の様にバカなことをしないよう、いつも慎重にしてくださいね。小屋に一人で残っているのはつまらないし、みんなに申し訳ないし、本当に気をつけてください。本当に。

**2 年 22 キ 山田みさお**

## 昭和 55 年 3 月 7 日(金)

11:41am 籠橋

3/3 の夜行にて入小屋して以来もう今日で4日目。入小屋した当日から遭対での「山靴によるリレー競争」や「スラローム大会」、そして次の日は、スキーツアーの偵察、etc と仲々、1日1日がとても長く思えるような、充実した日を送れた様な気がする。本日は、西田さん、石垣さん達と、赤倉に行く積もりだったのですが、疲れがピークに来ているので、小屋に居る事にした。

何と言っても、現3年生(21期)の頭数が少ないのが、実に淋しい。皆、各々自分のしたい事をやり、或いは計画している最中かもしれないが、今の全員が、揃って入小屋出来るようにしたいなあ。

僕は、9日の日に用事があるので、今日の夜行か、明日の朝早く帰るつもりです。例によって、自由なときはスキーをする気など、全く起こらず、今日もこうして山小屋の番をしているのです。山を下りれば、次は春合宿、体を鍛えて臨みたい。

それでは、22キの遭対、スキーツアーの無事終了を祝ってペンを置きます。

ps 後から入ると思われる鳥井君へ。

春合宿が終わったら遊びにゆくかも…。

**3 年 21st 籠橋泰憲**

## 昭和 55 年 3 月 8 日(土)

23キ 武藤

今日はどっと人が減って14人になります。1年8人、2年4人、溝友さんが2人。少し淋しくなりましたが、これからが小屋の良いところと思って、しつこく残ります。スキーを始めて2ヶ月、やはり何年もやっている人とは、どこかが違うという気がします。でも、練習、練習です。転んでも、ビンディングが外れても、とにかく滑ろうと思います。試験だけは滑らずに…

**1 年 23rd 武藤秀二**

## 昭和 55 年 3 月 9 日(日)

22キ 津江

遭対合宿もスキーツアーも何とか終わり、この小屋も8人という少人数になった。一つの炬燵を囲んでメシを食って、ノンビリしている最中である。23キが5人、溝畑さんの友人方が2人、そしてこの、一応山小屋委員長である22キが一人と、一年生の天下である。今夜も一年生共にいじめられそうだ。本当にあの連中は怖い。一人でいじけて、この日誌でもつけることにした。しかし今日の夕方は、この怖い一年生と溝友さん達が頑張ってくれたおかげで、山小屋も随分、大体綺麗になった。非常に使い易くなったので、この状態を続けるようにして欲しい。一人一人が少しずつでも片付ければ、小屋はある程度の秩序は保たれる筈だ。これから小屋に入る人間は、自分の個人装備を一箇所に集め、小屋の道具は、使った物はすぐに片付けるという習慣をつけて欲しい。以上、山小屋委員長という「じじい」な立場上、こうして「じじい」な事を言っておきます。後は、住み良い小屋を住み良く使って下さい。頼みます。5月の連休には、新1年生を連れて、この小屋に来て、酒を飲ませ、翌日は笹ヶ峰までマラソン大会でもやろうと思ってます。その時に、井戸もコンクリートで固めようと思ってます。ネズミ入りの井戸にはおさらばしたいもんです。それから、小生もいろいろ、至りませぬが、この小屋で、みんなが楽しく過ごせるように、まあ、ポチポチ、適当にやっていく積もりで

す。何か気付いた事があつたら、どんどん、この小屋  
日誌にでも書いてください。よろしく頼みます。  
以上

2年 22nd 津江真行

## 昭和 55 年 3 月 11 日(火)

早や 13 泊。自分は暇であります。思えば、いろんな  
人が小屋に入り、出て行った。僕は未だ居る。そして  
今日遂にダウン。ずっと風邪は引いていたが、一切無  
視して、毎日必ずスキーをしては転んでいた。そして  
朝、初めて風邪薬というものを飲んだせいか (ルルゴ  
ールド3粒)、頭痛・喉の痛みが激しくなってきた。あ  
あ、頭が痛い。食欲、一時的に無し。さっき飯を食っ  
た。もう少ししたら又食べよう。熱がある。38 度以上  
あるかも。大袈裟だ。7.6 度程度だ。しかし、自分  
には関係無いのだ。しかし、今日はお休み。身体がおか  
しい。ああ、つまらない。スキー初めての自分はよく  
頑張ったと思う。目下パラレルまで来ている。これ  
でも初体験なのだ。後から来る、青山さんや、またくる  
成さんに、早く見せたい。特に成さんには、色々教  
えて貰ったから。そして更に遅く入って来る作山さん、  
古橋さんにも見て欲しい。でも、この二人には会えな  
いだろう。自分にも体力の限界がある。目下、小屋に  
宿泊しているのは4人。(僕、湯浅。市川さんと平賀さ  
んという溝畑さんの友さん)。ああ、誰でもいい、新し  
い人、来ないかな。最近、毎日雪が降っている。吹雪  
いている。今日など、積もる雪で階段が坂になって、  
段が見つからなくなっていた。リフトが止まってばか  
りでつまらない。ああいやだ。しかし、明日は晴れる  
のだ。きっと。では、これからスキーの勉強をしよう。  
それでは、暫くさようなら。読者諸君

C.M. 1年 23rd 森嶋千唐

## 昭和 55 年 3 月 12 日(水)

ついに来た・しばらくお目にかかっていたいなかった。苦  
しい と言うより懐かしい。そう、”下り” (漢字忘れ  
た: 下痢?)。だるい。今日は下山するというのに…結  
局スキーは、まるで進歩なし、残念。ま、いやや… ひ  
どい乱筆…。にて失礼。  
皆さん、いろいろ お世話になりました。

市川 外部(溝畑友)

from 3/7

12 月より 3 ヶ月、2 回目の妙高苗名小屋。  
わあー。スキー場に雪が！この間は痛い目に遭った。  
4 日間居て、丸裸の妙高。新品の板もギタギタのギタ。  
ほんの少しの雪を見つけて、滑れば切り株で 200 平方  
センチ位の大あざ 股に一つ。

今回はよ一滑った。6 日間、朝は夜明けから夕暮れま  
で なんちゃって。毎コン毎コンで朝が無い。でも、  
雪は沢山降ってグレンデは上々、昼まで割合穏やか。  
午後が吹雪 というパターンが続いた。  
今朝が一番冷えた。山小屋の中のあらゆるものが凍っ  
た。ついでにザックのコンタクトが凍っちゃったのは  
不注意。

春の妙高国際は、思ったよりずっとずっと人が少ない。  
だから、左へ右へ、思う存分。スキーの腕はイマイチ、  
イマニぐらい。伸びが無かった、横這い、いや頭打ち  
って感じ。

山小屋は最高！ I love Naena Cottage！今回は楽し  
かった。本当にお世話になりました。どうもありがと  
う。See you Again.

平賀 (技術4年) 部外 (溝畑友)

11 日の夜行で入小屋、今回は、入試のバイトなどでス  
キーツアーに参加できませんでした。残念。10 日に一  
人で来ようと思ったら、スキーツアー後残っている人  
が居るとか居ないとか…でめげて…中川・椋代コンビ  
のおじゃま虫として登場した次第です。森嶋君と横溝  
君 2 名が入れ替わりに帰ってしまったので、全く静か  
な小屋模様であります。半日、小屋掃除をして疲れ気  
味。そうそう、第3リフトが止まっていた為、第2リ  
フトから、スキーをザックに、サンダーバード2号の  
様に取り付けて登ってきたのです。まだまだ若いけど  
(?)、夏休み以来山へ行っていないのが祟って、腰が  
かなりしんどかったのです。トレーニング不足だとは思  
いつつも、あんなに登ってくるとは思わなかったので、  
余計いけなかった。それにしても、平日は人が居なく  
てーと思っていたら、一寸の風でリフトを止められ  
てしまっは、折角飽きるほどスベローと思っていた  
のにガッカリでした。

明日、成島君、柳沢君、舟本君が来るそうです。それ  
にしても、こんなに水分の凍る山小屋は初めてです。

3年 21st in the mountain 山中直子

## 昭和 55 年 3 月 13 日(木)

久しぶりのスキーです。今日の朝、リフトが動くまで  
滑る練習をしていたら、何とボーゲンでも曲がらない  
のです。一時はどうなることかと思いましたが…。  
山小屋で酒を飲むのはいいですね。落ち着けて。現在  
やっているバイトというのが、圧力計の部品の加工で、  
単純な為実に疲れます。ただ、家庭教師より頭を使わ  
ないので楽なのです。

話変わって、ワンゲルの小屋で安く泊めて貰って実に  
助かっています。

リフトから見る景色、綺麗ですね。同じ綺麗でも十人  
十色でしょうが、他の人はどんな感じ方をするのか、

それに非常に興味があります。人の気持ちは根底までは分かり合えないもの、そう割り切れば全て終わりだけれど、そう、諦めきれないのが人間の面白さでしょうか。生き方ってさ、いろんな生き方があるんだよね。

2年元 22nd Funa 舟本

## 昭和 55 年 3 月 21 日(金)

1:30pm

今、水を汲んできました。何年振りかの水汲みです。しかも一人で。明日あたり帰ろうかなと思っているのですが、煮沸しなければならぬものが沢山あって、それを今日中にやってしまわないと、それからゴミを燃やさないといけません。いつもなら後輩にあれやレ、これやレと言って炬燵から出なくて済むのですが、今は一人きりなので、1年生に戻った積もりでやっています。

昨日、サンアントンで焼肉丼を食べていますと、サンアントンのおじさんがやって来て、未だ一人であるのかねと言ってビールを出してくれました。泊まって行けと言うのですが、それは悪いので、夕方、お風呂を借りる事にしました。そして夕方、お風呂を借りて、ビールを飲んでいて、カレーライスをご馳走してくれたのです。(17日にも混ぜご飯を夕食に戴いているのです)他に肉と筍の鍋物、わらび、大根の酢の物、野沢菜を茹でたもの。非常に満腹になって帰ってきました。サンアントンのおじさんお婆さん、どうもありがとうございます。小屋までの帰り道、昨日は大変でした。多少のガスなら真っ暗でも帰れますが、昨夜はもの凄い濃霧で、暗いせいもあって視界が5~10m。シールを着けたスキーが重く、汗だく。+冷や汗で、やっこさところ、小屋に着きました。いつも30分で帰ってくるところを、昨日は45分。とても疲れました。

今日はガスが濃く、スキーをする気が起こらないので、小屋日誌を読んでいた。ギネスブックに、山小屋最多通算宿泊回数というのがあり、この1位はOBだろうと思います。200日は軽く越えていると思います。でも、誰も書いてないのは淋しいと思いつ載せる事にしました。

小生の記録

- ・1年次 5月(5日),夏(5日),冬(9日),春(8日): 27日
  - ・2年次 夏(6日),冬(20日),春(12日): 38日
  - ・3年次 夏(7日),冬(14日): 21日
  - ・4年次 5月(3日),夏(6日),冬(11日),春(7日): 27日
- 合計 113日、この記録を見れば、俺の方が多igoと載せてくれる人が出てくると思います。

4年 20th 青山功

7:20pm

今から酒を飲み始めます。煮沸も終わり、残るは自分

が使う分だけになりました。ゴミも焼きました。小屋の中も整理しました。明日は帰ります…なんて思っていたら、昼間 OBの方が三人(小泉さん、牛窪さん、萩生田さん)がやって来て、明日泊まりに来るから、日曜と一緒に帰ろうと言うのです。と言うことで明日帰るのは止めました。

OBになって気付いたのですが、小屋費は安すぎるのです。(勿論、現役の料金です)現役⇔OB⇔部外者という料金の上で、どうみても現役⇔OBの方がOB⇔部外者という関係より血は濃い筈です。現役を倍にして一泊100円、OBはそのままで200円、部外者300円(冬料金)ぐらいは当然だ!この小屋はOBが建て維持してきたのですから(OBは金を持っているからとは言え)OBからふんだくる精神は良くない。

一人しか居ない小屋はいいもんです。ラジオからはクロスオーバー風のジャズが流れていて、僕他にはラジオとブタピカとストーブしか居ない様です。一人の夜はこれで3日目ですが、もう1週間ぐらい居る雰囲気です。昔は、小屋日誌の書き出しは「外の風は音もなく霧と静けさを運んでくる。妙高山や三田原は今頃凍てつく寒気に泣いているだろう。雪に埋もれるなえな小屋の中で僕は一人心を静めている・・・」という感じでこの日誌を書いていた。でも一人で居ると、そんな minor な気分にはなれない。一度そんな気分になると、抜けだせない様な気がしてならないのです。だからと言う訳ではないのですが、まあ、楽しくやっています。兎に角、暇でヒマで、昼間にOB方が訪問してくれた時は助かりました。久しぶりに(ちょっと大袈裟ですが)口を開いたのです。

明日の天気はどうでしょうか。天気が良ければ三田原に行きたいのですが、ガスが切れなければ諦めます。そうしたら、残っているリフト券(未だ7回あるのだ)でスキーをしようと思います。小屋にいて、スキーをしようと思います、なんて言い方はおかしいですね。スキーが当たり前なんだから。

8:00pm になって、ボブ・ディランになりました。(ラジオの話)今夜の酒はとても美味しいのです。そう言えばツマミは沢庵のみ!ソーセージが有ったはずだから、焼かなくては。ツマミ無しは慣れていますが、やはり胃の事を思うと何か食べなくてははいけません。小屋で急性(慢性?)胃炎にはなりたくないですからね。あれは経験者しか分からない地獄の苦しきですから。

(4年 20期 青山功)

15th Sho Ushikubo

また、山小屋に来ました。

OB15th 牛窪肖

## 昭和 55 年 4 月 27 日(日)

昨年(1979)も この連休に はるばる加古川からスキー山行にやって来て居ました。今年もこの連休にはるばる加古川から、今度は三田原大滑降を目指してやってきました。昨年は火打大滑降でしたが、バテバテで、しかし心地よいスキー山行でしたが、今年は単独行なので、どうなることか全く判らない。昨年は 15 期萩生田氏、16 期本多氏が一緒でした。昨年は MY CAR のサニークーペで 11 時間行程の 600 km 強を飛ばしたが、今年はノンビリ国鉄でやって来たのですが、列車はガラガラ、一車両に 5 人でした。

山小屋に着いて、現役が一人も居ないのに少々ガツカリして、朝食のパンを食べて睡眠不足を解消するため、布団を敷いて 0:30 迄寝ました。確かに去年と比べて残雪量が多く、山小屋への道も雪の下で、小屋前も残雪があり、ゴミ、練炭の燃えかすが乱舞して汚い。三田原登山の最短行程は池の峰尾根付近から直登するのだが、今回は黒沢から黒沢岳の南から大倉乗越を経て三田原北側から登り、三田原南面を滑降する予定。昼からは水汲みをしたり山小屋日誌をめくったりして 3:00pm からグレンデで滑る準備をして、3:30pm に小屋を出て第 4 グレンデを 40 分程かけて登り、5 分程で滑降。4:30pm から雨がパラつき、5:00pm になると、なんと土砂降り。危うくびしょ濡れになるところ、ラッキーでした。

ヤクルト-阪神は 9:5 でヤクルトの勝ち、阪神 4 連敗。関西へ行くと阪神一辺倒。「やったぞ岡田 初打点！」 負け試合の見出し。猛烈な風が吹いています。底雪崩が起きるかもしれない。

OB16th 植松

## 昭和 55 年 4 月 28 日(月)

7:15 pm 16th 植松

本日、三田原山山頂から笹ヶ峰牧場へ向けての大滑降を敢行し、成功したことを茲に報告いたします。昨日の雨が止み、朝 6:00am、10 分前頃起きたところ、陽の光が窓越しに感じられ、外に飛び出したところ晴れていたのです。慌ててスキー山行の準備をして、飯を掻き込んで、小屋を 6:25am に出たのでありました。残雪の豊富な辺りに、黒い、除雪された林道が一本通り、黒沢登山口に 7:40am 着。野鳥がチラホラと無く雪の原を黒沢を目指し、日頃の運動量の足りなさを痛切に感じながら、黒沢出合 8:50am 着。全く人氣の無い、十二曲をひたすら黙々登り続け、SMC なる赤旗に励まされながら富士見平着 10:50am。そして次の大滑降の楽しみだけを頼りに、野鳥の鳴き声に励まされ三田原を登る。北峰着 1:05pm。ここで初めて人に逢う。二人である。冬山装備をしている。スキーは無い。アイゼンを装着している。「赤倉からか」と聞

くと「いや、妙高山を越えてきた」と答える。不思議に思って私は南峰目指して歩き始めると、彼等が登ってきただろうと思われるトレースは、北峰と南峯の科尔から妙高側に消えていた。ゴツイなあと思って南峰に登ると今度は団体さんだ。ヘリコプタースキーの連中と一目瞭然。どこから来たのかと聞くと「長助池からだ」と答える。地図を広げて「どこから登るのか」と説明を求めると「南峰の南に 1ヶ所だけ登れる所がある」と答える、冬山装備の二人といい、ヘリコプタースキーの団体さんといい、全く今まで考えもしなかったコースで、新たなコースイメージを作ろうと思ったりした。さて、1:50pm に南峰から笹ヶ峰牧場へ向けて大滑降！コースの 3/4 は 15 分程度で実に愉快地楽しく滑ることが出来た。あとの 1/4 はブッシュが出て、割と時間がかかって笹ヶ峰牧場(事務所と京大ヒュッテの間)に着いたのが 2:40pm、7 時間かけて登った所を、わずか 50 分で滑り降りてしまうこの醍醐味、何とも言えません。帰りは京大の人に小屋前まで車で送って貰って、小屋に 3:30pm 着。

やはり誰も居ないのですね。慣れているとはいえ、やはり淋しいものです。この G.W.に皆さん、何をしているのですかね。

OB16th 植松

## 昭和 55 年 4 月 29 日(火)

11:10pm 16 期植松

夜中 3:30am 頃、ネズミちゃんのガサゴソと餌をあさる物音に眠気を若干阻害され再び寝入った後、5:30am くらいに”ドア”をガラガラと開ける音に、誰か来たと歓びつつも、誰だろうと思ひながら起きてみると、萩生田氏と三井造船のお友達 3 人でありました。「釣り」に来たというお話と酒が飲めるそうだというこちらの期待で、ついぞ帰神戸の気持もあっさり和在小屋に変わってしまったのでありました。朝飯(カップラーメン):一行、(カップスープ):私}を済ませ、真川の釣りへと萩生田氏のお車で向かったのでありました。

OB16th 植松

## 昭和 55 年 5 月 5 日(月)

昭和 55.5.5. 5:55AM 24 期松藤(マツフジ)

この時刻と共にボクハ飛び起きた。何という気持のよい朝だろう。食当なのに仕事は無いし、今日は野尻湖に寄って帰るだけだ。

2 日の夜行 妙高 9 号に乗り込み、翌朝、あの恐怖のリフト路を登った。苗名滝に寄った後だったからもの凄く疲れた。広瀬、中川、中本と居ると、朝から晩までクソの話ばかりだ。中川(本)は、雪で便器まで

こしらえた。当のボクはセブりに強いので、ブリさんと命名されたが、一説によると、センブリという音声の響きがイメージに合っているとか、いないとか…。初めて、この苗名小屋に来て、ボクは誠に感激した。素晴らしい。この上なく良い小屋だ。トイレとメシと寒さと、他の諸々のモノを抜かせば、そろそろ眠くなった。ではここらでペンを置くとしよう。また来る日まで、書ける時まで

Bye.  
**1年 24th 松藤**

この小屋では2日泊まったが、やはり一番素晴らしかったのは、初日の武藤さんの芸であろう。一体あの人は、何なんだろう。芸の極致と言える。もう一回「エキオ」をやってよ。

**1年 24th 岡田**

山小屋での生活は一日三食で非常に安く、下宿より持ってきた風邪も吹っ飛んだ。雪の中の野球も、へたくそなのが雪に隠されて、いつもより巧く見え、良かった。便所も思っていたより綺麗で、下宿と同じくらいだった。この山小屋での思い出は、一生、僕の心の中から離れないだろう。

**1年 24th 安藤**

お茶のせいとか、昨夜はトラも出現せず、まず快適な夜を過ごせたが、朝になってみると、寒く、シュラフの中の足がスースーした。食当は6時に起きて、メシを作り出したが、6:47になっても出来ない。今日は野尻湖へ行った後、この原始生活ともお別れを告げ、あの文化生活に戻る。名残惜しい！

**1年 24th 大津**

今、朝 6:51、未だ眠い。昨夜は暑かったが、その前の夜は寒くて目が覚めた。そのせいとか、風邪を引いたが、どうやら僕も馬鹿ではなかった様だ。一番印象的だったことは、横溝さんの殿様振りとか、武藤さんの芸、これは最高おもしろかった。

**1年 24th 樋口**

昨日のお茶のせいとか、昨晩はまるで眠れず。一人で焦り狂っていた。今朝の食事は、汁と御飯が別々なのが非常にうれしい。

**1年 24th 田代**

山道沿い、咲いているミズバショウに感動しました。

**1年 24th 中本**

今回は、高校での部活の合宿と比べて、楽だったけど、新練一次、二次がどうなるか、ちょっと心配。それから新歓コンパも、どうなるものか（特に八木、同じ神

高卒としてお恥ずかしい。村松さん、すいません！）まあ、とにかく今回は割と楽しい旅行だったと言えるのでは。先輩方も割と優しくったり、楽しかったり。唯一つ、今まで考えられている化工のイメージを僕が一変しようなんて考えているけれど、果たして出来るのだろうか？ 続きは小屋合宿で。Bye Bye

**1年 24th 津留**

途中の道で妙高に雪が残っているので、少し感動したが、小屋に来るに従って雪が多くなっていき、かなり感動と言うより嬉しくなった。なんせ、南国育ちのオレなので…。苗名滝も、水量も豊かで荘厳だった。セミは自分のアホさかげんを全てさらけ出したのが失敗だったか。自分を知って貰うのには良かったと思う。しかし、残念なことに一年の間に、まとまって話をしたりして、横の繋がりを深める事が出来なかった。この次、来る時は、もう一回り、自分に山の知識を詰め込んで来たいものだ。それに、スキーがやりたい！ 今から野尻湖へ行く予定だが、天候が危ういので心配だ。

**1年 24th 木宮**

第一陣で帰ります。一年生はガンバッタ！ ゴク로우サン！

**3年 22nd なりた**

家でゴロ寝の予定であった三連休を潰してまで来る価値があった。

**1年 24th 中川**

昨日はトランプをやっていたら、親切な先輩が居て（因みに木村さんと吉田さん）お金をくれた。村松さんも貰っている様だった。山小屋は、これだからオモシロイ。

**1年 24th 山辺**

タブチくんとヤスダくんの調子が悪かった。ドラエモンは元気が良かった。こんど、ヒロオカくんのプラモデルが出来たら連れてこよう。

**1年 24th 田沢**

この合宿で、無口でおとなしい自分を忘れてしまった様だ。津江さんが捻挫した時の顔が印象的だった。

**1年 24th 早川**

今回は、横浜からオートバイで来ました。つかれた！（←よく見ろ！「疲れた」と書こうとしたが…やめた。これが化工の三賢人だ。）

**3年 22nd 西田**

今回は一年生を連れて、やって来た。僕が新人として、

この五月の小屋にやって来てから、早や2年、あの時とは逆に、連れて来る立場となった。あの時は、1年生が10人も居なく、可愛いものだったが、今回は1年が20人も居て、かなりの勢力を持ち、元気にやっていた。仕事も、結構進んでやってくれて、これからも元気にやってくれる事が期待される。新人は早くワングル生活に慣れて、8月にも元気なワングル部員として、この小屋にやって来て欲しい。ガンバレ24期!

3年22期 浅沼

## 22期 津江真行

残雪の中での3日間、野球したり、酒飲んだりして、アツという間に過ぎ去ってしまった。みんな、野尻湖の方に行って、そのまま帰路に就く訳だが、何とか天気持ちそうだ。今、小屋委員の二人で最後の点検をして、ゆっくりしている。谷内が仲々、ギターを弾く様が、決まるとる。静かな小屋もいいものだ。でも、今回三十二人居た訳だが、仲々楽しいものだ。新人の24期の連中も、若くて、元気のある奴ばかりで2時間も暴れまくり、押さえ込まれた奴、ずっとずっと喋っていた奴、…それぞれの個性が出ていた。これから連中も、山行経験を積みながら、このワングルに慣れ親しんで行く事だろう。次回(8月)来た時には、ちゃんとした部員となって来て欲しい。きっとそうなるだろう。だから、俺達上級生も、しっかりやらなくては、とにかく、楽しい連休だった。井戸作りは出来なかったけれど、次回はきっとやるからな。では、さいなら、また来る。

3年22nd 津江真行

## 昭和55年6月3日(火)

### 18期 堀内章子

昨日、小屋に入って、今日帰る。折から道路工事として、杉野沢までしかバスが入っていないのを、何とかトラックを止めて小屋に辿り着き、トラックを乗り継ぎながら笹ヶ峰まで行って来てしまった。今日も、トラックに乗って杉野沢まで降りようと思う。出来たら、駅迄のトラックも掴まえたい。

小屋に来るのは何年振りかな。いろいろな思いで、いろんな人の事、思い出せちゃうんだけどさあ。やっばり、明日も頑張って、稼がにゃ暮らしていけんから、帰らねばなあ、と後ろ髪を引かれつつ、帰ります。さよなら。またきます。

(ほんとは、18期じゃないんだけど…)

OB18th? 堀内章子

## 昭和55年7月28日(月)

7/26~28 17期 石川幸嗣/知子・武田・川俣・小浜、

18期植草慶一/美智子・山口、お友達 柴田/生方 妙高山登山する積もりで来たのですが、あいにくの雨で終日小屋に籠もっていました。それでも10人集まれば、遊びは色々浮かぶもので、ギネスブック新記録を3コ作りました。

車は3台。小屋の中はカビだらけでした。一日目は小屋掃除、二日目は停滞、三日目は掃除して帰ります。雨に降られ、何も出来ないまま、しがたないエンジニアは帰って行きます。

(OB18期 山口)

## 昭和55年8月4日(月)

2年振りに、昨日小屋に入りました。白馬~朝日~蓮華と2泊三日の山行の後の妙高は、駅に着いたとたん、ホッとした安心感と懐かしさを与えてくれました。就職してからの1年は、本当に無我夢中で過ぎてしまい、何が何だか分からないままの、不安の毎日でした。おかげで5kgも痩せてしまい、親にはガラ と馬鹿にされています。今年は少し落ち着いて、5月の連休に尾瀬に、そして、7月の末に白馬にと、行った次第です。昨日、今日と、小屋で怠慢の限りを尽くしている訳ですが、日頃の緊張を解き放し、久しぶりの 時間の無駄使いをしています。このノートを開けて、まずショックを受けたのは、24期という言葉でした。何かとても大学時代が、このクラブに居た時が、遙か遠い思いに駆られてしまいました。後は、ページの隅々に見覚えのある名前を探して、会いたい衝動に駆られました。自分という人間の存在は、変わっていないけれど、感じ方、考え方は、知らないうちに、少しずつ変わってきて、もうあの頃には戻れないんだなあと思います。あの頃、色々揺れ動いた心も、今はとても静か、と言うか、とても醒めている様な感じですが、心をいつも飛ばしていたと思っていた私ですが、心の底がジンと来る様な、自分がその場に立っているという存在感や、目の前に広がる自然に対峙するだけで沸き上がってくるような気持、心が震えだして、どうにも止まらない感覚が、最近の私には無いのです。それだけ強烈な場面に出くわして居ないのかも知れません。山に対する葛藤の無い、静かな気持で入山しているせいかもしれません。今は、7月の末の、活気溢れる様な山を予想して来たのに、何か初秋の妙高に来た様で、ちょっとはぐらかされた感じです。林道もアスファルトに変わってしまい淋しいですね。妙高の林道を、土の感触を確かめながら、妙高山や野尻湖を眺めながら歩くのが好きでした。これから、明日帰って、7日の夜から北海道に行ってくる。最北端の岬に立って、オホーツク海を眺めて来たいと思います。又、2学期になると、子供達との毎日が始まります。いかに教え、どう接すれば、この子供達が良くなっていくのかに頭を悩ます

日々です。社会科のカリキュラム作りも待っています。自分が完成されるには、未だ程遠いだけに、色々やりたいこと、試してみたい事が待ち構えている世界に戻って行くのです。その現実の、山と山との間に浮かんでいる、雲のような休息の場が山行であり、旅行であるのかも知れませんが、自分の核に迫って考えられる、自分の原点に触れられる大切な瞬間だと、今のところ、思っています。

※そうそう、新宿駅で武藤君に似た人を見かけたと思ったら、白馬の登りで会うことが出来ました。とても懐かしく、嬉しかったです。

※猿倉のバスの車中で逢った8歳の坊や、こともあろうに、24才の女性をつかまえて「お姉さん達、中学生？」とは、ご立派な発言。(職業を知ったら、びっくりするでしょうね!) 林間の付き添いでも、生徒と間違えられた位だからなあ。

※山小屋の夜は、とっても恐いですね。最近、ちょっと臆病になったみたいです。

※あと、元〇〇期とかホントは〇〇期じゃないとか書くのは止めましょう。お役に立たず、四年間図々しく籍を置いていた私など、とても困ってしまうんです。色々書きましたが、今度いつ来るのか、とても楽しみです。一つ一つの鎖を繋げていくことを教えてくれたワンゲルは、やっぱり好きでした。これからも切れる事無く、鎖の輪を繋げていって欲しいと思っています。

OB 19期 H.F.

小屋でのメニュー。

8/3 夜：シーチキンの炊き込み、お吸い物

8/4 朝：サンドイッチ(トマト・きゅうり・シーチキン etc)、昼：月見うどん、マス寿司・サラダ・クロワッサン・茶・コーヒー、夜：チャーハン・ウィンナー炒め・お吸い物

8/5 朝：パン・チーズ・キュウリ・ウィンナー

二人分の食糧計画は本当に難しいです。まず、御飯が上手に炊けない。余る、不経済 etc。しかし、これは実に新婚家庭にも当てはまり、私はクリちゃんの事を思い煩います!

意外に小屋がきれいなので、現役の人達えらいなあと思ったけれど、このノートを見たらどうも、その言葉は18thと17thの人に捧げるべき様です。

引っかけ回して19期の人々の文章が載っているノートを探しました。主流を占めていた頃のノートは、数冊前で、時の移り変わりを感じ、それは24thという文字で倍加されました。もう卒業してから2年目なんだなあ。

今回の山行は、去年のクマさんとの山行と同じです。またまた天候不順で、エスケープルートをとろうと思ったのだけれど、強引に朝日まで行きました。その価値は十分で、花(今までの山行中、最高の種類と美し

さ)、残雪疲労脱力感、全て思い出に残ります。あっ、そうだ、買ったばかりのテントのポールを、ロウソクの火の為に折ってしまったのだ→グラスファイバー製のポールは熱に弱いんだね。

直江津から妙高高原へ来る電車の中で、K介君に瓜二つの人に出逢いました。笛木さんも私もビックリ、K介君に見せたいっ!

道路が美しくなってびっくり。笹ヶ峰ではあちこちに新しい施設が出来、美しいパンフも沢山あって、観光地として力を入れている様子がありありで、少し淋しいです。土煙を上げなければいけなかった笹ヶ峰は遠い昔なのですね。ダムの手回りもとても人工的に美しくなっていました。

昨夜、シュラフの襟元の所にネズミ(だと思ふ)が乗っかりました。ムニャムニャと払いのけた手に、小さな爪のある手の感触!まさしくあれはネズミです。それから眠れなかった!

只今、横浜市立南戸塚小学校 6年3組担任です。地図は上です。覗きにどうぞ。

8月14日 また入ります。 OB 19th M.Nakamura

(南戸塚小学校地図:略。かなり前の期の、アマカスさんという女の先輩のダンナ様で、塩谷先生という方がいらっしゃいます。小屋に行きたいけど、遠くて仲々行けない、との事です。)

OB19th 中村真弓

## 昭和 55 年 8 月 9 日(土)

21st 岩崎泰夫

機械科の研究室の旅行の途中で1泊させてもらいます。静かな小屋に憧れていたもので、満たされています。7人で一夜を過ごすのです。

昨日は夜行で長野に着き戸隠へ。ソバ美味い。趣が違う。植物園はちょっと花期がずれていた様です。奥社への道の杉並木は仲々荘重な雰囲気。その道で「シキンカラマツ」らしきもの有り。手持ちのハンドブックに載ってなく、確かめられませんでした。

4年 21st 岩崎泰夫

## 昭和 55 年 8 月 16 日(土)

海野和明(19期)

☆2月のスキー以来久しぶりになえな小屋に入小屋。

19thの4人でドボンをしました。井上君は、途中経過4勝10敗で十両に落ち、僕は10勝5敗で大関に昇進しそうです。

ここでフルーチェを食べて後半戦に突入!

(静岡に帰って今は「日本農業新聞・静岡支局」

TEL 0542-86-0532 に在局中!日刊で月1500円で

す。みんなも見本紙をよく読んで、すぐ新聞屋さんに行こう。今ならボールペンが貰えるよ)

OB19th 海野和明

井上晃 (19期)

今場所4勝10敗と大きく負け越し、来場所に関取生命を賭けてがんばります。ドスコイ。

8月の21日に八王子から諏訪に転勤する事になりました。向こうの寮にはメシも風呂も無く、朝昼晩、工場で食べる事になります。最近気になりだした、お腹の脂肪が薄くなりそうです。

尚、ファンレターの宛先は

長野県諏訪市大和1-8-9 さつき荘

tel 02665-8-5622

電話をかけて良い時間は

19期 PM6~8まで

20期 PM8~9まで

21期以降 PM9~翌朝7まで

OB19th 井上晃

8/16日、17日 織内忍(19期)

2年振り、久々に小屋に入りました。やっぱり懐かしい。暖かいおふくろさんに会いに来た様な気がしました。あのおぞましい緑の屋根が赤い屋根に戻ったし、社会へ出てすさんだ気持が、また若々しく生き返るような気がします。入ったメンバーも、何と もっとおぞましく、今日の私の腕は、ドボンの後遺症で、なんと泥にまみれた桜島大根の如く膨れあがっているのです。ほんと、楽しかった。

OB18th 織内忍

## 昭和55年8月17日(日)

中村真弓さんの友達 山口恵 (ガミ)

2泊しました。クラブで一つの小屋を持つなんて、いいなあ、大変羨ましく思っております。Mんが大切に作り上げて来たのがよく解ります。いつまでも丈夫で、みんなも楽しく過ごせますように。

いつも子供達(横浜市立中和田南小学校6年2組)と一緒になので、おとな?ばかりと泊まると変わった感じがしますね。

山で食べた物は、カレーもお水も、全部とてもおいしかった。

お世話になりました。どうもありがとう。

山はいいけど、海もいいなあ。スキューバダイビングをやってみたいものだ。では さようなら。

遊び過ぎの祟りか、小屋に帰ってから熱を出してしまいましたが、超被虐色情者の土保んの為、熱も下がってしまいました。

来年来れるかなあ?

OB19th M.Nakamura 中村真弓

## 昭和55年8月25日(月)

午前9時 山中・渡部・山室

昨日上野発23時46分 妙高7号で、一日早く山小屋に入った。そして朝、タクシーで五八木荘まで行き、挨拶をしようとした。6時前に着いてしまったので、少し早過ぎるのではないかと、バス停の辺りで少し時間をつぶしてから行っていたけれど、未だ起きていない感じだったので、入口の所で、またまた時間をつぶそうとしていたら、おばさんが出てきてくれて助かった。それで、ポリタン各自2本、水を汲ませて貰ったり、トイレを借りたりしていたところ、ほうじ茶とお煎餅とおいしい茄子とキュウリのお新香を出してきてくれて、私達は感激しながらも、しっかりと一緒にお弁当を広げて食べた。岡田さんは我々3人を見て、「会社の人かい?」とか言ったのにはびっくり、「いえ、未だ現役です。4年ですけど」等々会話を交わし、私はしっかりほうじ茶を3杯飲んで、すっかり満足してしまっ

た。その後バスで渋谷橋へ。バス代も高くなったものだと思いつつ。我々が変なところで降りるので、山登りの乗客の人がジロジロ見ていた。毎度の事だ。小屋の入口の所へ来ると、去年の伐採の跡には、ヤマリンドウやハバヤマボクチ等が咲いており、「あれ一植生も変わるんだね」と、ノロノロポクポクと小屋に向かう。入ってビックリ。OBの小泉さんを初めとして、その知り合いの方々数名と、その子供さん達がどどーんといらしてました。山小屋で乳幼児を見るというのは、不思議な感じでありました。でも可愛かった。

21キの元気な子 まず山室

★21st 女子の”モットー”シリーズ第1弾

『アフリカのように生きよう』

4年21st 山室晴美

4年生の素晴らしき横顔、独断と偏見と愛を込めて

21st 過去の栄光を再び 4年生万歳!

★思い出の一頁シリーズ★というより★おふぎの裏に真実の光有りシリーズ★

- ・中川雅邦氏：言いたい時に言いたい事をうまく言える人。強情・味付けにうるさい人(それが良いという物好きも居るが)。
- ・籠橋泰憲氏：人情に厚すぎるところに味のある人。苦勞が手に良く現れている人。
- ・山崎俊夫氏：考え方が一応悟っているような、諦めているような人。彼がどんな女性を望んでいるかは謎である。
- ・岩崎泰夫氏：庄司薫を地でいっている人。言動に知

的ポテンシャルティを秘めた様にも思える人。

- ・村松俊明氏：若い人。若干の弱さを克服しつつ、エネルギーに実践していつている人。
- ・藤倉大介氏：憎めないボンボン。まあ、彼のことは明美さんにお任せします。(21st 女子) ”ねエ大介”
- ・山本規夫氏：関西人のドライさを秘めた人。静かな優しさがあるようにも思える人。
- ・鳥井正志氏：カッコマンになりそうでなれない人。見かけに寄らず常識人。マネージャーとして有能。
- ・溝畑晃道氏：いやらしそうで、純情青年であるが、やっぱりイヤらしい人。見かけによらず勉強家で几帳面。そしてイヤらしい。
- ・横溝真司氏：アイドルは不滅です。一言では言えない魅力と寛大な心を持った人。御苦労様 (21st 女子)

以上男子 10 名、長いつき合いです。これからもよろしく！(ほんとうは、もっとチクチク、グサグサ ズザザッとやりたかった。)

4年 21st 山中直子

引き続いて、自画自賛シリーズ

- ・山中直子嬢：本来は恥じらいを秘めた女性ながら、1年の時の些細な(→これはまちがいが、多大な が正解) 過ちを、4年間、拭い去る事が出来なかった悲劇の女性。フーフ
- ・渡部朋子嬢：本来は 12 年間、女の花園で育った思慮深き模範生ながら、ワンゲルによって余儀なく変身して脱皮し、変態した柔らかき青虫。
- ・棕代節子嬢：本来は地のままで、極論で勝負し、皆を混乱に陥れるのが得意な人。猫好きな猫。話題のドツポの猫マンナン。(どういう意味や)
- ・山室晴美嬢：本来は泣く子もはたく情熱のペンギン男であるが、今はアフリカのように生きる をモットーに、日夜「よせばいいのに」を歌い、したたかな女の生きる道を模索しているチョコ犬マンナン。(快い酔いと共に)。

以上女子4名、不屈の精神を養いつつ、ナイーブな女性としての魅力を隠しきれない素敵生き物達より。素晴らしき 21st の男性諸君へ、大好きです(ハート印) ところで おかあさん・・・どうして 23 期には女子が入らなかったんでしょうね。(カゲの声「それは、言わずと知れているでしょう」←山室さんが悪い 23 期一同。)

1980.8.25. 11:00PM

情熱のペンギン乙女たちより。

ps (part I) 尚、筆者と以上の談話の内容は、一切関係有りませんので、お間違い無いように。(注. 筆者=山中マナ)

ps (part II) この誤字で先生になれるのでしょうか。

4年 21st 山中直子

8. 25 11:10pm

●21st 女子の”モットー”シリーズ 第2弾 ”早く寝よう”

妙高が呼んでいる。オヤマノリンドウが待っている！第3弾”アフリカ熱とオヤマノリンドウを忘れるな！”

昭和 55 年 8 月 26 日(火)

8. 26 5:20pm

女子W一行、今朝 6:30 苗名小屋に到着しました。只今、1年、3年、4年計 11名の女子がここに居ます。何故、私達はここに居るのでしょうか。それは、低気圧の直撃を受けて、小屋に停滞することになってしまったのです。

今朝 8:00 に小屋を出発、笹ヶ峰から黒沢へ向かって登り始めたのですが、だんだん雨足は激しくなるばかり、結局、明日晴れることを祈って、引き返して来ました。

4時の天気図だと、明日は曇ぐらい期待できるのでは…?

妙高ピストンは、もろ、つぶれましたが、火打にだけはせめて行きたい、と、女子一同、色気を發揮して、低気圧を追っ払おう、と言っています。

今から生姜焼き定食(サラダ付)のお夕食です。

今日一番感激したのは、レストをする時の”ごくろうさまでした”の声の綺麗なこと！女の子だけでやると、すっごくきれいなよ。ではね！

3年 22nd Misao.Y. 美佐緒

昭和 55 年 8 月 27 日(水)

4:25pm

現在、後半飯豊 pw のメンバー(マイナス2名)だけの、静かな山小屋です。一年生諸君が天気図の作図に励んでいます。飯豊では、天候的に仲々味のある山行を楽しめたのですが、小屋合宿後の周辺Wでは晴れて欲しいものです。飯豊は良かったです。メンバーに聞いてください。今日は戸隠、笹ヶ峰牧場への drive は仲々良かったです。明日からここも、騒がしくなる事でしょう。良い小屋合宿になることを願って、静かな小屋の良さを味わっています。

2年 23rd 大津山誠

今日、私は苗名小屋に来ました。私も飯豊の pw のメンバーの一人です。私は tera です。

3年 22nd 寺島一希

やっと、天気図の作成も一息ついてます。隣で tera さんとムトーさんがギターを弾きながら、ガンガン歌っていると云うか、怒鳴り続けてます！

飯豊pwも終わり、仲々有意義に過ごせた事を、良かったなあと思っています。やっと小屋まで来ました。この前五月に来た時の事が、いろいろ思い出されて、おかしな感じです。

まあ、昨日会津若松を出発して新津経由で直江津でピバグ。そこで(若松で)、な、なんと、あのトリイさんにバッタリ会い、コーヒーも戴いたのです。

明日からは、小屋合宿で皆に会える、楽しみだなあ。

1年24th S.Kimiya 木宮聖至

## 昭和55年8月30日(土)

朝。ジャージの膝小僧にくっついたカレーのシミを見つめながら…。

昨日はまずまずの天気、小屋整備は順調に済みました。みんな、tpってもよく働いて疲れたらしく、今朝は6:55、谷内さんが二階のベニヤ板を、津江君の顔の上に倒して、例の素敵ないしや声を挙げるまで、みんなグッスリ。谷内さんておがじ。

昔は小屋整備は、やりたい人がやって、やりたくない人はやらなかったそうです。それで割と汚かった。でも、小屋を長持ちさせる為には、年に一回は手入れをしないとダメみたいですね。22キ小屋委員長、副委員長、小屋委員のみんな、そして皆さん、御苦労さんでした。

小屋女子Wに来る前に、小さいスケッチブックを一冊貰ってきました。鉛筆片手に、小屋の周りをうろつくと、案外、美しいところが沢山ありますね。高谷池では、デュワァー！と吠えながら、火打、焼の彼方へ沈む夕日と、池の水面にうつる山並みを、紙に写してみました・・・なーんて。あの色は、仲々難しいです。火打の上のハイ松には雷鳥が二羽居ました。今日、スケッチブックの白紙を半分程残しながら、帰ります。また来ます。さようなら。

4年21期 渡辺朋子

正午を5分過ぎた時刻なのであります。

今日の午前中は長いMeeting! やつとのことで乗り切り、昼食を心待ちにしている私メであります。しかしMeeting というやつは、いつやってもカッターイものだ。特に今日のはしんどかった。主眼点Ⅲについてなのだが、普段から そんな問題意識を持っていない僕にとって、何を話すというより、何を考えたらいいのか、非常に混迷した次第です。もう大脳の細胞が粉々になってしまったし・・・と言えば大袈裟であるが。

と書いているうちに、大変な事に気が付いたのである。というのは、今まで読者諸君が見ても分かるように、文字が乱れ飛んでいるのだ。急いで書くと、いつもこうなのだが、正常に書いている積もりで、こうだから困ってしまう。授業も始まる前に文章を書く練習をし

なくては…。

ところで、僕はこの苗名小屋に来たのは初めてで、想像していたよりも、かなり居心地が良い。昨日は一日中、木材と釘と道具とを使うだけの作業で、かなり面白かった。僕の作品も、小屋の中に2、3個転がっている、大したモノではないけれど、名前を見つけたら…笑ってやって下さい。

最後に作った(と言えるかや〜)物は ”わかんかけ” なのです。あの山室嬢の御指示のもと、津留と一緒に作ったのであるが、構造上に若干の難点があるので、1年も持つかどうか、定かではありません。

ここまで書いたら、どうやら文字に対する”メド”がたちました。これ以上貴重な紙面を使うに忍びないので、筆を置きます、あしからず。

1年24期 さかい

ps 小屋の帰りに、暇を持て余している人は、松本に寄って下さい。お待ちしてますわ〜。

TEL 0263-25-5040まで

1年24th 酒井文隆

水田徹(20th)

忙中閑有り、忙しい中で、ポッカリ空いた空白の2日に、無理矢理、この小屋を押し込めた訳ですが…。防腐剤の匂う山小屋に、ただいま居ります。今回、夏の山小屋合宿は、若いメンバーがごったがえしている。この時期に来る20thのアホなんて俺くらいなもので、他の20thOBOG連中は、必死に金を稼いでいるのだろう。

この世代交代した山小屋に居ると、正直に疎外感と寂しさを感じる。数年前の今の瞬間には、自分の仲間達がザワザワ、ギャーギャー楽しく騒いでいたのかと思うと、時が去った後の侘びしさはひとしおである。一人2階でシュラフをかぶって寝ている。下では22, 23, 24期がmeeting。普段、横浜で生活している時は、ちっとも思い出さない、過去の山小屋の生活の場面場面が浮かび、思い出し笑いをすると、気持ち悪い。次第にそれらの事は、夢と区別がつかなくなり、目を覚ましたら、よだれを垂らして寝ていたのであった。

今度、暇があったら、20thの同窓会なんぞを山小屋でやってみたいが、20thはなんせ怠慢な連中が多いので、山小屋の生活が、無茶苦茶になりそうだ。

明日(31日)ここを発ちますが、諸先輩方、後輩諸君水田 は元気だ、不滅です。乱筆乱文にて

OB20th 水田徹

## 昭和55年8月31日(日)

キリ 6:30AM

目が覚めた。何だこれは…?!

どこもかしこもメチャクチャ！何でオレがドロコなんだ？何の為に掃除したんじゃ。ギャギャーグュービー、ドドドドド…ころころ。しかしながら、これ程のコンパは初めてである。22期の象徴とも言えそうな、このもの凄いコンパの跡形。雨の中のファイアー、外で寝たバカ川、水も無くて、何も作れん。みんなみんな、グロッキー。洪水の館だ。この凄い小屋合宿(オレは道路整備と食当2回)を、絶対忘れない、いや 忘れられない。また来る日まで、Good-bye our lodge!

提供 1年24キ マツフジ

キリサメ 10:00AM

今日は、朝になってから大変だった。昨夜の饗宴の後始末。例年に比べてナカナカだった。僕は22期の山小屋委員長ですが、あのようなコンパは、もう二度とやりたくは無いです。反省してます。でも、ムタクタで、面白かった事は否めません。雨中のなかでの山小屋掃除、みんな良くやってくれた。本当に感謝している。そして、雨の中で、強引にファイヤーをやって、世の中全て泥だらけ。これもワングルの若さの象徴であろう。でも、無事終わって、ホッとしている。みなさん、ごくろうさん。

3年22キ 津江真行

5:10pm 21st 箆橋

11:58の妙高9号に乗って、昨日30日に小屋に入った。例年だと夏合宿、pwを終えて、久しぶりに仲間に見えるんだという、何か懐かしさめいたものがあるが、今年はまだ4年。夏休み中も卒研の実験等で忙しく、そんな中でフト、もう一度、雪の降っていない笹ヶ峰が見たくなってやって来た。やはり、相変わらずの山小屋で、タクシーから降りて、小屋へ行く途中の、防錆剤の臭いが、それを良く表していた。昨日はミーティング・コンパと、色々あった訳だが、その中で23期のL養の発表があった。4年になってからも、「まだまだ…」と思いつけてきたが、目の前でメンバーの発表、コース説明が行われてゆくと、今まで自分達にもこんな時代があったんだなあという懐かしさよりも、確実にこれで世代交代だなという、何とも寂しい気持ちになった。ところで、昨日のコンパも、やはり相変わらずのコンパで、雨の中、タックルして泥だらけになり、そして、酒を飲み、歌うという、もう啞然としたものだった。恐ろしい。

明日は小屋を出ようと思う。そして今度来るときは、…できれば4年全員で来たい。

4年21st 箆橋泰憲

昭和55年9月1日(月)

1:52pm

現在、小屋には周辺wの面々と青山氏だけという、静かな小屋が戻ってきました。それにしても、8/30のコンパは大変だった。僕はといえば、人並み程度しか酒を吞まず、L養のLeaderの新と、かなり遅くまで話をしてた。やはり矢張コンパでは騒ぐだけでなく、話もしたいものです。L養へ向けて、どんどん動いて行くクラブを感じます。22期の皆様、御苦労様でした。外は相変わらずの濃いガスです。9月になっても、未だ小屋に居る自分を不思議に思います。20日の夜行で上野を出てから、未だ東京へ帰らずに…。晴れてくれないかなあ…。

2年23rd 大津山誠

昨日はLeader講習会だった。1年二人を残して、他の1年は全員帰り、小屋はかなり静かに、寂しくなった。昨日は久しぶり2・3年だけの集合体となった。このこぢんまりとした雰囲気は、春合宿以来ですわーっ。3年の女子の人二人が夕飯を作ってくれた。どうも、ご馳走様。昨日はみんなで、やいやい、わんわん、ウェストロープやザイルをいじって遊んでいました。今はもう、pwのメンバーと青山さんしか居ません。全員で9人、家へ着くのは明後日だけど、帰ったら勉強がいっぱい有る。ユウウツだ。

2年23rd 吉田

今日の晩飯はキンドー汁だ！ムク汁とも言う。下界ではこれを ブタジル と言う。

2年23rd 吉田豊

昭和55年9月22日(月)

ワングル入部、8年目にして初めて妙高山を征服。燕温泉-天狗堂-山頂-黒沢-笹ヶ峰のコースで、延々10時間歩く。コースタイムは勿論オーバー。老化の証拠かも…。とにかく疲れた。謙太郎君、ごくろうさんでした。

(OB17th 山下)

9.22~23

去年に引き続いて、1年振りで小屋へ来ました。こんなキレイな小屋は、8年来係わりを持っている中でも初めてでした。井戸も立派になったし、でも少々重すぎるくらいはあるが。

22日の夜に、山下と謙太郎を乗せて、妙高高原駅まで夜のドライブでした。霧が濃くて、前方1mぐらしか見えなかったけど、どうにか、こうにか行って帰って来ました。林道が良くなっていて、便利になったと言うか、何と言うか…。

でも、小屋の記録を見ていると、17thなんて、殆どおじさんだなあと思いました。

尚、余りの寒さ（8℃）に、ストーブを使いました。今年も冷夏で、杉野沢のイネの作況指数は10（平年の10%）とのこと。早く冬が来て、雪が降ってスキー客がどっと来れば良いのですが。また来年も、新潟に居たら、やって来ます。

OB 17th 梅野匡俊

## 昭和 55 年 10 月 12 日(日)

s 55-10-10~10-12

会社の同僚と小屋に入る。昨日火打に登ったが、やはり火打はいい。もう一度、厳冬期に登ってみたい。

OB 17 期 木村善行 (10/12)

## 昭和 55 年 10 月 18 日(土)

S. 55.10.18~10.19

白樺と紅葉の樹々を眺めながら、かぐや姫を B.G.M. として珈琲をすすっています。雨は少しパラついていますが、明るい晩秋です。

それにしても中島さんと来ると、アクシデントが多く、この小屋へ来るにも、またしてもアクシデントに遭いました。

場所は上野駅。6 番線のホームには、新聞を敷いて座り込んでいる人がギッシリ。3:23 発の妙高 5 号は待てど暮らせど来ず、他の列車も同様。架線事故とかで、2 時間半遅れて到着。乗ったのはいいが、急行とは名ばかりで各駅停車、しかも長野止まり、長野に着いたのは 11 時。そして黒姫には 12 時。黒姫から、中島さんの車(先週、故障したそうです)で小屋へ。小屋着 1:00。何と、上野から 10 時間近くかかってしまった。

小屋も当てにしていた場所が開かず、中島さんは手慣れたところで、便所の窓から潜入。

ウイスキーを飲んで、良い気持で寝入った。晴れば戸隠山へ登るつもりでいましたが、どうなることやら。卒業してから気が付きましたが、なえな小屋は、くびき山塊のど真ん中にあるので、ベースとすれば、随分といろんな所へ行けるって。(周辺地図有：略)

野尻湖でボートに乗るだけじゃなくて、ハイキング気分で斑尾山へ登ってみれば…。

OB20th Mariko Usui 白井真理子

## 昭和 55 年 10 月 19 日(日)

10/18~19

2 週続けて小屋へ来た、前代未聞の物好き男、その上にまた、2 週続きのアクシデント(列車事故)に、いささか辟易しつつ小屋に入りました。どういう訳か、その物好きな小屋行に付いてくる物好き一人、やっぱりと思う人でした。でも、こんな初体験ばかりの中

で入った小屋は、いつもと同じに僕らを落ち着かせ、気分を解きほぐしてくれました。炬燵に入り、ボソボソと世間話などしているうちに、早くも AM 2:30、夏山なら、もう起きて、支度せねばいけないのだが、我々は逆に寝仕度にかかりました。横になると心持ち、酔いと疲れが、遠い夢の世界へ連れて行きます。何も考えずに寝れました。1 週間の疲れを癒すかのように。山小屋よありがとう。今回はたまたま 2 週連続で来たけれど、今度また疲れたら、お世話になります。ほんとは今日、戸隠にピストンする積もりで来たのだけれど、只今 11:30 (AM)、朝食を食べています。これからあっちこっち寄り道しながら、ゆっくり帰ります。(車故のぜいたくじゃ)

OB 19th T.N. 中島輝夫

## 昭和 55 年 12 月 27 日(金)

26 日、妙高 9 号の、何と寝台車で(生まれて初めて)参りました。今年も雪が多くて嬉しくなりました。(旧年は惨めだった)。スキーも新調(10 年振り)したし、2、3 日思い切り滑らせて貰います。

OB 元 18 期 ワタベ

4 年女子の素晴らしき横顔、独断と偏見と愛を込めて！

- ・山中直子嬢：
  - ・本来は乳離れしない乳の直子(ナイコ)！
  - ・本来の”やさしさ”を素直に出せず。
  - ・”アリー？”と言ってるくせに、意外に〇〇〇〇しているが、やっぱり”アリー？”の子。
- ・渡部朋子嬢：
  - ・本来は”なれそでなれない主婦の朋”子。
  - ・”ウッシャー”と強がるくせに、本来、そうなりきれずに、ひたすら、ひたむきに静かにやっとう子。
- ・椋代節子嬢：
  - ・本来は皆を混乱に陥れる”椋代節(ムクダイブシ)”子。
  - ・何でも感激して、それを誰かに同じように感激させようとするが、結局一人で感激してる子。
- ・山室晴美嬢：
  - ・本来は男を惑わすだろ女晴美(ジョセイビ)。
  - ・本来は泣く子もはたくペンギン男の筈だが、ペンギン男にもなりきれず、ペンギン女にもなりきれず、結局何なんだーと、聞きたくなるが答えない、結局ペンギン男の子。

(途中で終わってます) No. 19へ

No.18号 完了